

6. 保存活用の基本方針

6-1 保存活用の基本目標

保存活用の課題や検討を踏まえ、下里・青山板碑製作遺跡における保存活用に関する基本的な考え方を次のように設定する。

基本目標

板碑製作遺跡の保存活用を通じて
里山の 青石の文化を再発見し
歴史・文化を未来につなぐ まちづくり

板碑は日本の中世を代表する文化財で、歴史を物語る重要な資料である。その板碑を製作した場所が下里・青山板碑製作遺跡であり、小川町はまさに「板碑のふるさと」である。

下里・青山板碑製作遺跡は、地域住民はもとより国民の貴重な文化財であり、その特性と「青石の文化」の原点というべき里山の文化景観を踏まえた保存活用を図ることが大切である。遺跡の調査研究を推進し、その成果を保存活用の基礎とし、史跡の特性を活かした適切な整備を行い、本町のまちづくりに多角的に寄与することを、保存活用に関する基本的な目標とする。

6-2 保存活用の基本方針

基本目標を踏まえ、保存活用に関する基本方針を次のように設定する。

- ① **武蔵型板碑の生産地として、その価値を保存するため、史跡の恒久的な保存を図る。**
 - ・公有化を推進するとともに、適切な管理区分と手法により維持管理や復旧を図り、史跡の厳密な保存に努める。
- ② **史跡の価値や魅力をわかりやすく伝え、一般公開を進める。**
 - ・史跡の価値や構成要素を明らかにして、要素に応じて確実な保存を図りながら、公開を推進するとともに、史跡の理解を助けるガイダンス施設等の整備を目指す。
- ③ **わが国における板碑の研究及び情報発信の拠点とし、継続的な調査・研究・教育を進める。**
 - ・板碑に関する調査・研究を進め、関連する機関等との連携を図り、本町を板碑の研究と情報発信の拠点とする。また、史跡を活用した学習機会の充実を図り、史跡とそれを取り巻く地域の新しい価値の創造につなげる。
- ④ **青石と下里・青山地域の人々の暮らしづくりが体感できる活用の仕組みを創る。**
 - ・地域の青石文化や多様な文化財などを多角的に把握し史跡の理解につなげるとともに、既存の文化・レクリエーション施設と連携し、史跡の効果的な活用を図る。
- ⑤ **町民参加型による遺跡の保存活用の体制や仕組みを構築する。**
 - ・現地説明会や展示会など史跡に触れる機会を増やすとともに、保存管理や活用に住民が参画できる場所や仕組みを構築する。